

## 情報企画室の業務報告

事務局主幹（情報企画室長）

諸 富 茂 文

### ○ はじめに

平成 22 年度の事業では、前年度に実施した 5 年に一度の「学術情報基盤システムのリプレース」と、7 年に一度の「キャンパス情報ネットワークシステムのリプレース」という大事業を、なんとか乗り越えたものの、今までにない、ソフトウェアも含めた大規模なリプレースであったため、旧佐賀医科大学のレンタル品であったグループウェア「サイボウズ」に代えて導入した「iWARE」に関してトラブルが相次ぎ、結局、4 月いっぱい iWARE のデバッグに費やすこととなった。

これとは別に、事務用端末に搭載した Microsoft Office2007 についても、3 月に佐賀電算センターにおいて、2 度にわたって実技研修を実施していたものの、それまでの Microsoft Office2003 と比べ、使用方法が大きく変更になっていたため、3 月から 4 月にかけては、これらの対処にも忙殺されることとなった。

### ○ 平成 22 年度の業務報告

#### 1. リプレースに伴う買取り PC の処理

平成 22 年 2 月末に実施したリプレースに伴い、それまで事務職員に対し、1 人 1 台の事務用 PC を買い取りで整備していた本庄地区（鍋島地区においては、すでに前回の情報処理センター（現在の医学サブセンター）のリプレース時に、事務用端末もレンタルとしていた。）の PC について、全て引き上げたうえで一括処理することとしていたが、まだ十分に使える PC も少なくなく、その切り分けから始めなければならなかった。

しかし、引き上げてきた PC 類の数は、100 台以上もあり、まず収容する場所から考えなければならなかった。結局、会議準備室奥の、かねてから情報企画室の作業場として提供を受けていた小部屋しかなく、そこに全ての回収機器を運び込んだが、半スパン強しかない狭い部屋に、これだけの数の PC を置くと壮観ですらありました。

運び込んだ PC は、概ねの基準として、購入後 5 年を経過しているものと、それ未満のもの（OS は Windows XP に限定）に分け、購入後 5 年以上経過している PC については、HD 内のデータを完全消去あるいは物理的に破壊したうえで処分を行った。

また、上記の基準を満たし、かつ、問題なく稼働することを確認した PC については、臨時の貸出し用や、職員が純増で配置された場合の配付用 PC として、ひとまず情報企画室で置きましたが、3 月に、附属特別支援学校及び附属中学校に 15 台を出したにも関わらず、残り約 20 台近いそれらの PC については、置き場所にも苦慮することとなった。

その後、事務センターや派遣職員用等に 19 台を出し、現在は、落ち着いてきたところです。

#### 2. 業務改善

事務改善委員会に置かれた 11 のプロジェクトチーム（以下「PT」という。）のうち、IT 化部門について、情報企画室長がリーダーとなり、以下の事項について検討することとなった。

- ① データウェアハウスの構築
- ② 一般職員のスキルアップ（一般職員と事務情報化推進要員ごとに）
- ③ IC カードの導入について

これらの事項について、6月から検討を開始し、12月には最終報告を出すこととなっていた。メンバーは12名で、そのうち情報企画室から、諸富、原田、松永の3名が構成員として含まれていた。

課題が大きいため、直ちに検討を開始したが、①については、そもそもデータウェアハウス（以下「DWH」という。）とは？から議論を始めなければならず、③については、何をどこまで対象とするかの議論に、多くの時間を割くこととなった。

手始めに、ベンダーや先行大学からの情報収集、可能であればデモをしてもらうことから始め、PTメンバーの共通理解を図った。

この中で、特にDWHの構築については、デモを受けたNTTデータ九州とメディア・フュージョン及び先行大学のいずれからも「検討には1年以上を要する」旨のアドバイスがあった。

また、ICカードの導入については、学内に磁気カードやバーコードが混在している現状から、これらを可能な限り統一することを前提として、学生証及び職員証のICカード化について検討を行うこととした。

最終報告では、①DWHの構築及び③ICカードの導入に関しては、当初から危惧されていた通り、結論を出すに至らず、検討期間終了後も、引き続き検討を続けていくこととなった。

ただ1つ、②一般職員のスキルアップについては、外部講師（専門業者）による、実技を中心とした「スキルアップ研修」を実施することとし、会場については只木センター長に相談して、夏季休業中の8月25日、26日及び29日の3日間にわたり、シンクライアント環境でOffice2007が使用できる、総合情報基盤センターの中演習室において実施することとした。

研修の内容は、

- ①8月25日（木） Access 入門（事務情報化推進要員も対象者に含む。）
- ②8月26日（金） Word2007・Excel 応用研修
- ③8月29日（月） PowerPoint2007 応用研修

で、各コース50名とし、研修レベルについては、PCの1人一台体制が実現して久しいため、受講者は「Access」を除き、実務レベルでこれらのソフトを使えることを前提とした、中級程度の研修内容とし、Access入門については事務情報化推進要員が受講する場合の受講料は、情報企画室が負担することとした。

本学で、外部講師（講師1名、インストラクター2名）による本格的なソフトウェアの研修を行うのは初めてであり、成果に注目したい。

また、IT関連の資格を取得した場合の「受験料大学負担」及びデータ操作等の高度な技術を持っていることが客観的（本学の情報関連教員又は情報企画室から）に認められた場合、勤勉手当の「成績良好者」とすることが出来るよう、関係部署と調整することとなった。

### 3. 情報戦略本部の設置について

大学の情報関係の事項を審議・決定する機関として情報政策委員会があったが、情報関係で何かを行おうとすれば、必ず「ヒト・モノ・カネ」がついて回る。このため、委員会での審議については、まず、委員会での了承（仮決議）をとり、財務当局との打合せを経て予算的な裏付けを得た後、再度委員会に諮り本決議するという、言わば「二度手間」をしており、とても効率的とは言えなかった。

その点を解消する目的で設置された情報戦略本部（直下に、情報企画委員会）は、学長をトップに、3理事（病院担当理事を除く。）と事務局長、附属図書館長、工学系研究科長、医療情報部長等、本学の重責を担う方々で構成されています。

このため、本部会議の開催に当たっては、日程調整が困難であることが予想され、具体的な協議等については、その下に設置された情報企画委員会で行い、委員会は専門的な見地から課題に取り組むこととしている。

委員会での審議の結果、了承されれば情報戦略本部会議に持ち上げることとなるが、その際は、委員会が出された専門的立場からの意見等を付して、審議依頼することとしている。

なお、情報戦略本部会議は、これまでに2回開催されているが、平成23年3月16日開催の、第2回情報戦略本部会議において、学長から「ICカードの導入」についての発言があり、審議・了承されたため、ワーキンググループを立ち上げ、平成24年4月導入を目処に、全学生・教職員に配付出来る「学生証」と「職員証」としての導入に向けて検討している。

今後は、大学経営に資するための、データウェアハウスの構築、セキュリティポリシー（第3版）の策定、次期リプレースの準備、LANの張替えに代表される情報基盤の整備等について検討を重ねていくこととしている。

なお、情報企画委員会は隔月（偶数月）に定例開催し、情報戦略本部会議は年度初めに（あるいは、年度末に翌年度の計画を審議）当該年度の計画を審議するほか、委員会からの付託に基づき不定期に開催されることになる。

#### 4. iPadの導入に向けた検証

総務課から、会議のペーパーレス化の一環として、iPadの活用について検証してほしいとの依頼があり、総合情報基盤センターの只木センター長及び江藤助教からアドバイスをいただきながら、検証を行った。

その結果、iPadの最大の「売り」である無線LANが、本学のOpengateに対応しておらず、接続しても5分くらいで切断されることが分かり、少なくとも、無線LANを使用するのペーパーレス会議には使用できないことが判明した。

しかし、どのようなことに使用できるかは、実際に使用してみないと分からないことから、平成22年11月に、検証用として3台（32GB）を先行導入し、情報企画室において検証に着手した（平成22年11月）。

その結果、検証を行った松永事務員から、当面、データBoxとしての利用に代表される、iPad単体を1対1で個人が使用するという検証結果が報告された。

先行導入した3台については、佐賀大学規程集等を格納した後、学長及び事務局長に各1台を配付し、残りの1台を、情報企画室の検証用として預かることとした。

その後、平成23年3月に、当初の予定どおりiPad（64GB）12台を間接経費（オーバーヘッド経費）により導入し、学長、常勤の役員、事務局長、総務部長、総務課長、広報室（3台）に配付（学長及び事務局長については、先行導入したものと交換）し、先行導入した3台については、総務課副課長、総務課総務係及び情報企画室に配付した。

ただし、宮崎理事分については医学部総務課へ、川上監事の分については監査室へ配付し、活用を依頼した。

なお、平成23年3月にiPad2が発売される（3月25日先行予約開始）ことが判明し、この検証についても、総務課から再度依頼があった。そこで、再び総合情報基盤センターの江藤助教に相談したところ「今度のiPad2は、本学の無線LAN（Opengate）が使用できる。」ことが判明し、新たな検証を行うこととなった。

#### 5. その他事件・事故及び行事等への対応

(1) 医学部栄養管理室における器物破損について

平成 22 年 9 月 30 日。医学部栄養管理室の事務用端末（レンタル品）のディスプレイが、何者かによって物理的に破壊されていた。

本件は、職員が帰宅して不在の間に侵入した何者かが、レンタル品である事務用端末のディスプレイを破壊したというものです。

施錠していた部屋への建造物侵入であったことから被害届を出し、データ漏洩等、他に被害がないのか調査を行ったが、特段の異常は発見できなかった。

(2) 個人情報の漏えいについて

平成 22 年 9 月上旬及び下旬の 2 度にわたり、在学生に対して発信したメールにおいて、宛先を「cc」で送信していたため、学生の個人情報である「携帯電話のメールアドレス」が、各受信者に対し、送信した全員分のアドレスが見える状態で送信され、個人情報の漏えいとなったものでした。

この件については、たまたま送信できなかったメールがあったため、リターンメールとして戻ってきたものを、情報企画室でチェックしていて発見したもので、まったくの偶然によるものでした。

漏えいした件数は 20 件弱と 40 数件と、それほど大量ではなかったものの、明らかな個人情報の漏えいであること、原因が単純であるだけ問題は大きいこと、対策を考える必要があるということで、只木センター長と相談の結果、理事及び広報室を交え対応策を協議することとした。

担当の中島理事が不在であったが、対応には緊急を要すると判断し、漏えいの対象が学生であったことから、学生担当の瀬口理事を交えて打合せを行い、次善の策について協議し、当該課では直ちに対応を行った。